

昭和二十八年九月二十七日招集(第2号)

第三回市議会定例会々議録



館山市議会第三回定例会々議録(第二号)

昭和三十八年九月招集

一九月二十七日(金曜日)

議事日程 (第二号)

第一 通告質問

第二 議案第九十六号 消防団消防自動車用ポンプの購入について

議案第九十七号 消防団消防自動車用ミシーの購入について

第三 議案第九十八号 救急車の購入について

第四 議案第九十九号 消防団員用被服の購入について

第五 議案第九十九号 水槽付消防ポンプ自動車用ミシーの購入について

議案第九十九号 水槽付消防ポンプ自動車用ミシーの購入について

第六 議案第九十九号 市有財産の処分について

議案第九十九号 市有財産の交換について

第七 議案第九十九号 寄附の取扱いについて

議案第九十五号 鉈切簡易水道本管新設工事請負契約の締結について

議案第九十六号 鉈切簡易水道取水施設工事請負契約の締結について

第九 議案第九十七号 千葉市外九十九市町村の軽自動車税の賦課徴収に關する事務を行なう取員の共同

設置規約の一部を改正する規約の制定について

第十 議案第九十八号 館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

第十一 議案第九十九号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

第十二 議案第一百〇〇号 館山市消防団員酬等、公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について



第十三 議案第一〇五号 館野小学校講堂改築等、他工事請負契

約、締結について

第十四 議案第一〇六号 第二中学校技術科室増築等、他工事

請負契約の締結について

第十五 議案第一〇七号 館山高等学校化学工業科校舎増築工

事請負契約の締結について

第十六 議案第一〇八号 昭和三十一年度館山市々々支出追加更正予

算

議案第一〇九号 昭和三十一年度館山市特別会計と畜場

追加更正予算

第十七 議案第一一〇号 昭和三十一年度館山市特別会計休養施設

々々支出追加予算

議案第一一四号 昭和三十一年度館山市特別会計ユースホス

テル々々支出追加更正予算

二十七日 午前十時開議

・議長(黒川佐太郎君)本日出席議員数二十九名、

こゝより第三回市議会定例会第二日の会議を開会いたします。

本日議事はお手元に配付の日程表により行ないます。  
日程第一 陳述通告による一般質問を行ないます。

(九番議員 安西益男君登壇) (拍手)

・九番(安西益男君)二点について伺いたいと思っておりますが  
PTA会費全廃の早期実現。現在各都市におき  
ましては父兄負担による教育の経費増大に「義務教  
育は無償とする」と憲法に規定されております。

この精神に基づいてPTA会費の問題が非常に大ま

取り上げられておるということは、すぐに市承知のことと  
思ふんですが、既に東京都におきましては、先般定例  
会におきまして、教育長、通達をもって各中学校長、P  
TA会長にPTA会費の軽減ということが、出されて  
おるということももうすぐ市承知のことと思ふんです。  
また、当市におきまして、市長の任期中には、PTA会  
費の全廃ということが約束されておる。このことについまし  
ては、非常に現今教育の諸経費に悩んでおります。文  
兄にとりましては、実に大きな朗報として、期待を持て  
おる。このように思ふので、今後この実現に向かってあ  
らゆる面をわたって行政指導がなされていくのは当然だと  
思いますが、現在この段階におきましては、どのような具  
体的に処置されていくかということについてお伺いしたいと  
思ふのです。

もう一点につきましては、大館山市の建設の方向について大館山市の実現、つまり十萬都市の建設に当りては、あらゆる面に関りて研究の施策を進めらるゝておると思ひますが、財源の關係、この点につきましては、今後の發展について特に重要視せらるゝ問題であると思ひますが、この中には、産業の振興企業誘致に重点が置かれるというふうに関つておりますが、十萬都市の実現に對しては見通し、こういう点についてお伺ひたいと思ひますが、よろしく願ひいたします。

(市長 本間 譲君登壇)

・市長(本間 譲君)九番議員さんの質問に對して、まゝお答えいたします。

P.T.A.会費の全廃につきましては、私市長就任のときに申し上げてございますが、現在P.T.A.会費と申しましても



そう中う大部分が営繕費、或いは、需用費、こういうものが非常に多いわけでごさいます。現在調べて見ますと、PTA会費のうち、約六百四十万円が需用費、営繕費等になっておるわけでごさいます。二百五十万がPTA自体の運営費というふうになっておるのですが、これは、市内小中学校全部の額でごさいます。合計が八百九十万円、こういうふうになっておりますが、義務教育であります。小中学校の文足に對して、そういうふうな需用費とか、営繕費とか、そういうふうなもの、PTA会費を徴収することは、私としては、あまり好ましくないと考へて、市長就任の三十八年度に二百三十万の軽減をはかるために予算を計上してやつておりますが、その内容を聞きますと、小学校に百五十万、中学校に五十万円、営繕費において三十万円、合計二百三十万円は、PT



A会費の負担軽減をはかるために処置のわけでございます。

私は、任期中に営繕費、需用費に属するPTA会費の負担を軽減したいと考えております。来年度もやはり二百三十万程度でよいば、もつと多く計上して参りたいと考えておりますが、これがいろいろ聞くところにより、軽減になってもらえないというふうなことも聞いております。物価が上つておるからということにせうでござい

す。いづれにしても、そういう趣旨でやっておるわけでございますから、これは先生の方から、そういう要求をするだけ、或いは、又兄の方から、応援して、そういうふうになるだけ、或いは、せんが、とにかく、義務教育のPTA需用費等に属する経費の負担は、軽減するが当然だと思つておりまして、そういう意味におきまして、これから



よって参りまして、少くとも、私の任期中には、需用費・営繕費に使用してゐるPTA会費は、廃止・全廃いたしなうかと考えております。二百五十万円、PTA自体の運営費は、これは当然会があるんですから、会費でまかなうことはいいんじゃないかと考えます。全廃につきましては、そういうような意見を持つております。

それから、大館山市建設の方向について、市質問でございしますが、市承知の通りだと今まで、大館山市実現を目指して、議会の方から市協力を得て、新市町村建設計画を中心として、完全とはいひませんが、学校施設の拡充、庁舎、一尿処理場、隔離病舎、国民休暇村、鳩山荘、ユースホテル、丸山ダム、重要幹線道路、港湾等の建設に努力して参つたわけでございます。ようやく、その都市形態として、要件を具備して参つたのであります。

ときにあたりまして、私々念願である十萬都市を建設  
 するためにまず、観光を中心とした発展策を計画し、都  
 市の発展は人口の増大にあるという目的達成に向い、企  
 業誘致、住宅、道路の建設を促進すべく、なほまた  
 こゝと並行して、産業の振興をはかるべく、たゞ今、努力  
 中であります。

参考までに申し上げますと、都市開発の一つの重要な要  
 件である道路の改善につきまゝでは、一昨日本員協  
 議会で有料道路について、中報告申し上げましたが、非  
 常に期待できる結果を見込に至ったことは、皆さへとも  
 に本当に喜びに耐えない次第でございます。

木更津以南の道路の改修についても、鋭意陳情中であ  
 りまして、これも今から二カ年乃至三年のうちにつぎ  
 上ると思ひます。



なお、有料道路も少くとも二年半位でできると思いますが、  
幹線道路というものは、そういうふうにでき上ることになっておる  
わけでございます。

次に先般市会で承認いただきまして、市勢振興調査、現  
在、第一段階に着手して、準備を進めておる状況でございます。  
これに加えて、週日市報告申し上げました水資源調  
査の結果も、十万都市として十分な水を確保できると  
いう朗報でありまして、市勢振興調査の答申と合わ  
せて慎重審議した結果、市の建設計画について、強力  
な方針を決定して参りたいと思っております。

私はその見通しはいろいろ困難なこともありまして、ま  
ことに明かすのもうであると思っております。

なお、今後、十万都市にいつなるかという点でございますが、そ  
の断定はちょっと申し上げることが不可能じゃないかと思ひ

ますが、大いにこの目的に向かつて努力をいたすことを申し上げても答えといたいたいと思います。

九番(安西益男君)ただ今、市長さんから市説明によりまして、PTA会費の軽減には最大の努力をはらわれているということには、はつきりとおわかりなわけであります。これに伴いまして、現状というものを知っている範囲で見ますと、そういうものが徹底していないという面が非常に見える。あるいは、当然いっぺんにこれを予算計上ということは、現段階におきましては、非常に無理だと思いますが、それに携わるところの方が誠意をもって、ぞむというものをもう一歩突き進んで、そういう点の文兄の悩みの実態というものを、もっと知っていたいただきたい。この点の努力をお願いしたい。こう思うわけであります。

また実際には、PTAの会費の内容はどのように使われて

おるが、或いはまた学校教育の運営費というものが本當に建設の方向に使われておるかということをもういっぺん検討していただきたい。このような面をお願いしたい。ましてこの点の賛同を望みたいと思います。

次に十萬都市の建設につきまして、非常に中努力を怠っているということも今の中説明によりまして見通しが明かるといふこともはっきり打ち出されておったわけだ、でございます。

これに伴いまして福祉の増進。この点もやはり先般市長の決意というものが述べられておりますが、こういった面が地方行政の発展途上にあります。現在、熊山市におきましては、住民の生活の向上というものを一歩突き進んで、面で中努力願いたい。このようにお願いしたい。以上で終りたいと思います。

・議長(黒川佐太郎君)通告質問は以上により終りました。

こゝ際申し上げます。日程第二以下は議案の内容を説明は本定例会の初日に全部終了いたしましたので、本日は各議案とも質疑より始めます。

日程第二議案第八十六号議案第八十七号を一括議題といたします。

・三三番(高橋文治君)全然本内題とは関係ございませんが、市長さんのお考えをお尋ねいたしたいと思います。

本議会の開会の当日各課長さんの中出席を求めました中報告がありましたが、先般新しく選任されたところの監査委員がまだいっぺんお顔を拝見いたしません。もちろん文書によつて例月検査はわかりますが、せめて選任さして一回位顔を見せていただきたいと思います。かように考えるものですが、議長さんのお考えをお尋ねいた

います。

・議長(黒川佐太郎君)議題外ですが、答弁いたしますので  
やう承願いたします。

ただ今、件、実は私も考えておりまして、今日、番外と相談  
して、その運びにいたりたい。こう考えておる次第でございます。  
承了承願いたします。

・消防署長(若田実君)一昨日、議案、説明に際して  
て大へん不備であつた点がございしますので、本日補足説  
明をいたしたいと思ひます。

議案第九十六号の自動車ポンプと議案第九十一号  
の同ドク消防自動車ポンプでございますが、同じNM式  
高圧三段タービンポンプほか、機装式となっております。  
一、かもその価格が約五十万円の相違となつておりますので  
この点を説明をいたしたいと思ひます。

議案第八十六号のタービンポンプについては、一分間の放水  
水量八石、議案九十一号のポンプについては、Aと申し  
ますポンプでございまして、八十六号のものより一分間  
約十一石出ます。企画らしいいまいても一段上のポンプ  
でございまして、ポンプについて十万円程度の差がござい  
ます。それから消防署の水槽付には、その他に二千リットル  
のタンクを積載いたします。このタンクが内部がメタリッ  
クの塗装でございまして、これは、常時水を積んであります  
ために内部が腐らない装置がございまして、このタン  
ク自体が約二十万円でございます。それから、危険物  
大災について、積載いたします薬液の槽がこれに約  
五万円、これは、ステンレスでございまして、特殊な薬  
品を常時積んでございまして、腐らないようなステン  
レスのタンクでございまして、これが五万円、薬液を水

と混合いたします。特別な装置でございます。これに約五  
万円、薬液を放射いたします。これは、普通の水を放射い  
たしますものと異なりまして、特別な等価を使います。

これが二本つきます。これが五万円、その他分団と違つた  
消防署であります。それ以上、機装をいたします。  
で、これが五万円、総計いたします。約五十万円、増  
額となるわけでございます。一昨日の説明で足らなけ  
つたと存じますので、ただ今補足して説明させていただきます。  
三五番（松本藤太郎君）今、署長さんからの説明で八十七  
号のシヤシーは、プリンスを契約された。本署の方は、い  
すずを契約。こういうふうになっておりますが、今までいすず  
は、一番いいのだというふうにも、当局から、私たちは、聞  
かされてゐる。それが今回に限ってプリンスを買った。これも  
地元の協力者といひますか、負担金、関係があるという

ことですが、そういう方たちも要望だということでもこういうものを果して市が契約していいか、どうかということも疑念に思ふ。決して私は、地元の方々とプリンスがどうこうということはいいませんが、そういう点でいえずがいいのだという説明をしていながら、こういうふうに消防団の方はいいのだということにはならない。公費が出てゐる。しかも仕事目的というものは同じだ。そういう点でもう少し理解のてきまようの説明していただきたい。

・消防署長(岩田実君)も説明もつともでございます。公費を使用いたしますので、その点十分考えて行なわなければならぬわけでございますが、いすずは、これは最低の現在のガソリンエンジンでございます。ホイルベース、三メートル市で購入いたしたいと思ふのが、一番小さな型でございます。いすずのガソリン車でこれ以下はホイルベースの短かい



中型シャシーと申しますか。こういったものは、いすくにはない  
わけでございます。十都で購入いたすのは、中型車  
でございます。こゝがホイル・ベース・ニメートル八十位でござ  
います。それでプリンスのエンジンシャシーというのは、消防  
車と。今まであまり使用していなかったように考えまうと  
地元の方から、そういう要望をお聞きいたす。まうたう  
で、私の方でもエンジン・シャシー。その他調査したうでござ  
います。が、シャシーにつまうては、シャシーを構成する  
あります。鋼材。その自身をより研究したうであります。  
ニッサンを使用するでございます。鋼材が厚さ・四・五ミリ  
でございます。

それによつて、プリンスは、やはり厚さは、四・五ミリ、ニッサン  
のキャブオールに使用しております。鋼材と厚さにおいてま  
うた。揺れにおいて相違がないわけでございます。エンジンに

つきまゝでもプリンスも近頃、そういったような乗用車とか、貨物車と一しても、頭角を現わして売り出してきたといふことを聞きます。で、エンジンの方も別にニッサントヨタと比べても遜色ないやだといふことが判明いたります。たもです。から、地元の要望がそういうのを考えてあるならば、あえてほかの機種にひとくても、そう遜色はないのではなにかといふ点を考えよう。たために地元の要望を入れます。プリンスに決定いたるような水才でございます。

・一九番（藤田好治君）八十一号の点についてお伺いいたします。購入予定者は、六四年式でございますが、才四分田の才九六三年式を選んだことはいかなる理由であるか。お聞かせ願いたいと思ひます。

・消防署長（岩田実君）ただ今、才賢向うでございます。た点、お説、通りでございます。で、我々といふに、まゝでも、もう少し待てば

六四年が買えるからもうれいあつと待たれたらどうなのということ  
を申し上げたのでございますが、部長とはトメ部、おまが  
これは六三でも六四年でも別に型は違ひないやうだ。

年によつては相当大きな変更がある年もあるけれども、同じな  
ところ今年は今全然わらないうた。一日も早く六三年で  
も結構だから買つてもらいたい。こゝ十月以降の大失期  
に新しい車でもって備えたいから、こういう要望がござい  
まーたにめい我々といふたーまーでは、六四年型を買うの  
うに慥慥一たうであります。地元の要望で六三年  
式にうつたわけでございます。

一丸番(藤田好治君)すでに六四年型が市内に流出して  
ある折から六三年式を買うということは、購入価格に  
おいても相当違ふ面が出てくると思ふので、この点を折  
衝さいて購入することを望みます。

・三二番(三沢新君) 関係にならぬかもしれませぬが、お伺いいたします。

消防団の機械、器具はもとより消防署の充実は、消防行政にとってきわめて喜ばしいことであらうと存するわけでございます。一軒一軒ながら、機動力が全然ない分団がかなりまだあると思います。こういった機動力のない分団に対して、市といえども、今後更新の意思があるかどうか。もう一つは、特に農村地帯に参りますと、きわめて用水施設が不備でございます。今年度も、館野で二カ所、大災がございまして、全然水のない地点でございまして、タンク車によって消火しないと、実例がございします。

こういう場所に対して、やはり計画的に用水施設を充実をはかっていたら、またこういう計画を現在

お持ちであるか。この二点について市賛同いたらないと思  
います。

・消防署長(岩田実君) ただ今、農村にある消防ポンプは、機動  
力がなくて、効力がないから、これを更新する意思があるかと  
いう市賛同でございますが、確かに、その通りでございます。マ  
サウのような腕用ポンプ、手引ガンリンというものは、ほとんど  
その部落、或いは、隣りの部落を回わる程度でございます。マ  
て、なるべく機動力を持った方がいいわけでございます。  
ただ、昨年明示された消防力の基準でございますが、  
が、これによりますと、やはり一番重点を置くのが、市街地  
を重点を置くようになつております。大災が発生いた  
るような場合に、延焼規模の拡大ということは、やはり、  
市街地の方が多いいわけでございます。マカー、あながち  
市街地だけを目標にしておるわけではございません。

当然、農村地帯も消防力を高めなければならぬわけでございますが、現在のところ順次市街地の方をやつて、それから農村の方の機械化を進めていきたい。こういうような段階でございますので、逐次そういったような手引機械も更新するように市の方にもお願いする考えでございます。

二点、用水の不備でございますが、これは消防ポンプがいかに充実いたしなくても水がなければ「鉄砲が落ちて玉がこない」と同様でございます。常に我々も水利の充実を考えてゐるわけでございますが、今年も消防施設強化の計画に基づきまして、約十カ所の野水槽を作る計画を持っております。これはもう農村・市街地を問わず、本年も神戸地区の方にもすでに完成しております。それから新らしい野水槽を

作る場合には相当経費がかかるわけですが、農村地帯にもし、川のようなら、それが、野水槽に匹敵する設備を作り、たならば、それが、野水槽に匹敵する能力が、あるわけですが、こういふようなものを、利用いたしまして、全市をあげて、水利施設、完備を目標に、現在考えて、ある次第でございます。

・三二番（三沢節君）ただ今、器具、機械、方は、順次、將來やるということですが、私としては、市の消防署が、充実して、農村の機械は、やってもらえば、なおいんです。が、それも、十分な水の、貯えを持つ、が一番、大切な、では、なからうか。そういう観点から、ぜひとも、不備のところ、用水池を、川止めでもいい、野水槽でもいい。そういうものになるべく、早く、充実して、いた、きたい。その場合、考えるんですが、現在、館山市が、農村の、わずかなところ、の住民、ところに、補

助をするのが同じ率だ。こゝがでない理由だ。五十戸のところと二百戸のところと同じ負担なんだ。この率の改正を——していただきたい。こゝは再三申し上げておる。いまもってこういうもつが全然改正されておらない。それが農村地帯にもけるところの用水施設の不備という一つの大きな原因になつておる。こういうことを十分考えて、弾力性を持たせて用水池の充実をはかつていただきたい。その点いかにございませうか。

・助役(小出武男君)ただ今、三三番議員さんの中へ意見がございしますが、私どももかねてから、そういう意向を実は持つておるわけでございしますが、署長から先ほど申し上げましたように、一応都市を中心として、附近を先行き——して順次やつていくという考えからして、今のようない問題がもうおこになつたということが察せらるゝのであり



ますが、当然、同じものを作るのに寄附金の集まるところが先でできるということは全体からいえますとアンバランスでございまして、除々にただ今、市意見のような方向にやっていきなにと考えます。

いろいろ予算、その他関係もございしますけれども、一応、消防行政の考え方で都市を中心として順次農村地区に伸展さへいくというふうないき方を考慮してありますので、それとう関連において、その点を解決していきなにと、かように考えます。

・議長(黒川佐太郎君)議案第百八十六号、百八十七号に対する質疑は、これをもって打ち切り討論者略原案通り可決するに市異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)市異議なしと認めます。よって両

案は原案通り可決されました。

日程第三議案第八十八号に対する質疑を願います。

・三番(安藤竜吉君)署長の説明では大へん結構な、しかも完備しておるというふうなことでございまして、救急車を一日も早く購入したいということは、かねて議会からその要望もあつた。我々としても、最近の事故から考え、こういう救急車を一日も早く実現してほしい、ということは、念願しておりました。ここに初めて念願がかなつて、まことにありがたいと思つております。

そこで、装備の内容ですが、完備という言葉で尽きておると思つておりますが、こゝ中へ無線器はついておりますか。

消防署長(岩田実君)新しく購入していただきます救急車には無線器の装備はいたつておりません。

・三々看(安藤竜吉君)無難者はどうしても必要だと思ふんです。  
というのは警察のパトカーと消防の救急車と性格は違  
う。消防救急は、ひと命に関与する。今年に入りま  
して救急業務というものが大体八十件です。あつた  
一かも、死亡がそのうち六人あつたということでございます。  
私の感得ておりますのは、夜間救急に出勤します。

そうすると本署では直ちに救急車といく先を病院  
に連絡します。そうして病院に待前に待つて置く  
ように連絡する。ところが夜間、病院であります。当  
の先生がおつたりいなければ、また病院が休みであつたり  
というときに患者を輸送しようということになります。  
絶えず救急車といく方向をきめる。二軒も三軒も  
医者を探して救急車が患者をかついて回るといふこ  
とがときどきある。そういうとき、車の中で重体があり

い重体になるということでございます。

救急出勤と同時に署の方は病院を手配する。そして救急車に連絡してどこに運べということをやってゐる。そういう意味で連絡用として無線器は必要だと思ふのです。送受信を付けて大体十天、七万でできると思いますが、何とか予算措置を置いていただきたい。どうしても今年だめなら来年でも考えていただけたらというふうに思いますが、消防長さんいかがでございますか。

・助役(小出武男君) 三々番議員さんはすでに経験者でございまして、いろいろ過去に経験もございまして、一々意見非常にごもつともだろうと思ひますので、十分考慮したいと思ひます。

・議長(黒川佐太郎君) 議案第八十八号は、こゝにて質疑を打

ち切り討論者略原案通り可決するに中異議ありませんか。  
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

日程第四 議案第八十九号

一八番(西村真次君)私は、ただいま提案の八十九号は、もちろんでございしますが、その他、本日提案の議案大半に關係があることにつきまゝ一、二質問いたしたいと思います。それは、契約の方法についてということであり、

本日提案の中で物件購入、或いはまたまだ上程されておきませんけれども、工事の請負、こういうことでございします。

物件の購入につきまゝしては、先ほど提案された八十七号のジャンシーの購入、これが最低で六十五万五千円ということですが、その他は、全部、これ以上、価格ということに

たっておりまして、一かも、その契約の方式はすべて随意契約ということに相なっております。ところが、館山市の契約に關する条例を一つついたりますと、随意契約は四十万未満に限られてゐるように見受けられますが、この点、価格の点で条例に依拠することに相なろう。また、これに關連してゐるもので申し上げますが、工事の請負の予定価格は、百五十万未満が指名競争入れという条例になってゐるようですが、これは、いずれも一般競争入れにしろが、要當ではなからうかと思ひますが、この点につきまゝして、中意見を伺ひたいと思ひます。

・助役(小出武男君)中説明申し上げます。ただいまの中實由は、契約条例にすぎます。例えば、物件の購入は、四十万未満は、随意契約、二つうふうな解釈でございしますが、これは、見解が違ふのではないかと申すの

ですが、中指摘の点は第五条を指摘することではな  
かと思いますが、要するに契約は、四十万以下ならば議  
会の議決を経ずして契約できる。

議会にかける場合は四十万以上である。こういうことであり  
まして四十万以上ならば、幾らでもいい。こういう解釈でど  
うします。

ここに書いておきますように第五条に次に掲げらる契約  
と結ぶには次の点によつて議決を経なければならぬ。  
こういう点かというものは金額ではななくて、契約の種類をさ  
していろいろでございます。従いまゝで四十万以上でも議会  
にかければ幾らでも契約限度はある。こういう解釈  
に私もは立つております。従いまゝで、今土木工事  
に――まゝても百五十万以上でも幾らでも工事にあき  
まゝでは、百五十万以上は、議会にかける最長限度。



こういう解釈に立っていただきたい。かように考えます。それからもう一つは一般競争入札でございしますが、これは館山市ではほとんどやった事例がないといいますが、ほとんどのないわけでございまして、これはいわゆる金市民から資格者には、だれでもこれに対して入札が応募できる。こういう制度でございまして、これはごく特殊なケースの入札である。こういうふうに従ってなるわけでございまして、第五条は、議会にやける最低限度を示すのもうであるという解釈に立っていただきたいと思います。

・一八番(西村真次君)不勉強のために説明がわかりかねますが、この条例の原則というものは、やはり競争入札というものが原則ではないかと思っておりますが、ということは、入札に關していろいろと弊害が起るがちなものである。その弊害を未然に防止するため競争入札が必要



であるという趣旨で条例が設けられておるのではないかと思  
います。もちろん先ほどの自動車のようにいろいろな関係  
でこの車がいいというふうに断定的な場合は別であ  
りますけれども、その他の場合にはやはり多くの競争者  
に対して入れさせるといふことはいいいではないか。かえってそ  
の方が利益ではないかというふうに考えるわけでありますが、  
この点、もう一度よく説明願いたいと思います。

・助役(小出武男君)ただ今、指摘の通り、入れは一般競  
争入れに付するものが原則でございます。要するに  
これは、今おっしゃいますようにすべてをたくさん人に公平  
な立場から入れをするというものが、入れの原則でございます  
ます。しかし、これは、今申しますように一般競争入れ  
には、非常に手続と手数料を要するわけでございます  
。で、場合によれば五十件、百件という応募があ

った場合の処置ということも考えなければなりません。  
従つてこれを救済する辦法として隨意契約と普通  
競争入札という制度を法が認めておるわけでございます。  
て、これは条例が示しており、ますように最高限度限  
り内で隨意でも競争入札でもござります。こういう制  
度をこの条例は規定してあるのであります。たてまえ  
としては一般競争入札が契約の原則でございます。  
ことは一審議事さんの中意見の通りでございます。  
それでは非常に複雑になり手数もかかまつて、隨意  
契約制度、競争入札制度を条例は區別して規定して  
ある。こういうふうにも思っております。

一八番(西村真次君)了解いたしております。

議長(黒川佐太郎君)議案第八十九号に対する質疑は、

これをもちて打ち切り、討論は省略することに申上り、

ありませんか。

(「要議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 中要議なしと認めます。よって討論は省略されました。

こゝより採決を行ないます。

本議案の採決は、本市契約に關する条例第六条の規定により出席議員の三分の二以上同意を必要とする特別多数議決であります。よって起立によつて採決を行ないます。

本案を原案通り可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

・議長(黒川佐太郎君) 起立全員よつて議案第八十九号は原案通り可決されました。

午前中の会議はこゝをもつて休憩いたします。

午前十一時四十分

休憩

午後一時〇七分

再開

議長(黒川佐太郎君) 午後出席議員数二十二名。

休憩前に引き続きの会議を開きます。

日程第五 議案第九十号 議案第九十一号を一括議題  
といたします。

中質疑願います。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中質疑なしと認めます。

両案に対する討論は省略するに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)中興議なしと収めます。よって討論省略することに決しました。

こゝより採決を行ないます。こゝ際申し上げます。

而案は特別多数議決であります。よって起立によつて採決を行ないます。

而案を原案通り可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

### (起立全員)

・議長(黒川佐太郎君)起立全員であります。よつて議案第九十号・九十一号は、原案通り可決さしこゝた。

日程第六議案第九十二号・九十三号を上程いたします。

・二四番(島野茂樹郎君)九十二号議案ですけれども、提案のときに価格決定の基礎についてお話があったように記憶しておりますけれども、もう一度、中説明いた

だきたいと思ひます。

・総務課長(山口実君) この件につきましては、税務課の  
固定資産税の評価基準を用いまして、坪当り約  
四百円程度でもって評価いたしました。

・議長(黒川佐太郎君) 中質疑でございますか。なしと認め  
ます。 本案は討論者略原案通り可決することに中  
議ありませんか。

(「質疑なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 中質疑なしと認めます。よって、而  
案は原案通り決定いたしました。

日程第七 議案第九十四号。

・一〇番(辻田実君) この点につきましては、過日の説明の  
中でございまして、農協より寄付があったという  
ことでございまして、その車は右前や、形式等説明

があつたのでございす。こゝを見ますと、農業基本法  
の制定に伴い農業所得の倍増というふうなことに  
ついで、注文が付けられておりますけれども、こゝに  
も注文が付けられて、こゝに對する、何れ使用上の  
条件とか、そういうものが付けられてゐるか、そ  
ういふ点について、どうなつてゐるか、無条件で  
農産統計課に寄付さ  
れたものか、農産統計課の行政方針に従つて農協  
とは、関係なく使えるものか、農協なり、そ  
ういふものが使  
うとき、優先条件、そういうものについて、何  
れか、あつてゐるか、その点について、説明が  
なつたようでございすので、明らかにしていただ  
きたいと思つてゐるが、

・農産統計課長（伊藤幸太郎君）お答えいたします。

寄付の申し込みにつきまゝでは、一切条件その他は、ご

いけません。あくまでも市といたーまゝで寄付の申し入  
いといたーまゝで、おもに農林関係のいろいろな用に優  
先的に使つていくということで考えております。

一、番(辻田実君) そうなると、農協とか、構造改善事業  
について、市独自の使用目的が優先する。こういうこと  
にならなければ、その点については、さういふいいと思つ  
つてすが。

・農産部課長(伊藤幸太郎君) お話の通りでござい  
まゝで、あくまでも市といたーまゝして、無条件に受け入  
れたら、もうございませう。

・議長(黒川佐太郎君) おはかりいたします。二、三、三、質疑  
を打ち切り、討論者、略原案通り可決いたします。こ  
とに決まらなせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)



。議長（黒川佐太郎君）中々議なしと認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

日程第八、議案第九十五号、九十六号を上程いたします。三四番（山本昇君）別にこの議案に対して基本的には賛成でございますが、一、二点を教えていただきたいと思ひます。

宛切、簡易水道の敷設にあたりまして簡易水道の目的から参りますと、地元住民の生活ということが基本に考えられてゐるべきと、かように私も聞いてゐるわけでございますが、たゞたゞそこ、地にございます。国民休暇村の建設という問題がございしますが、こういう休暇村の建設に伴ひまして、やはり相当の飲料水が必要ではなからうか。かように考えてゐるのでありますが、二々この問題がどうようにはからぬ、どうように解決されておりますか。

教えていただきたいと思ひます。

厚生課長(吉田耕一君) お答へ申し上げます。国民休暇村との関係でございますが、一応国民休暇村の最低人員を把握いたしまして、それを給水人口に加えて、なお、その一面の取原措置でございますが、一応起債に求めている。このように考えて起債を申請中でございます。

議長(黒川佐太郎君) 議案第九十五号に対する賛成を打ち切り討論省略することに決まいませんか。  
(「賛成なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 決まらずと認めます。よってこれより採決を行ないます。

こゝ際申上げます。本議案は特別多数議決であります。よって起立により採決を行ないます。

本案を原案通り可決することに賛成の諸君、起立を求めます。

(起立全頁)

・議長(黒川佐太郎君)起立全頁、よって議案第九十五号は原案通り可決せしめしむ。

議案第九十六号中質疑なしと認めます。

よって討論省略原案通り可決すよにや異議ございせんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって本案も原案通り可決せしめしむ。

日程第九議案第九十七号。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)本案は三よにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決すよにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中々議なしと認めます。よって本案  
は、原案通り可決せよと決。

日程第十、儀栗芽九十八号について、質疑願います。

三四番(山本昇君)市税条例の一部改正でございます。  
これは、基準法がございまして、それに伴いまして改正さ  
れて、納税者の負担が軽減という基本的な考え方に立  
つておるようでございます。まことに結構でございしますが、  
参考に一、二お伺いいたします。

十八条の二の五ですが、督促手数料の全廃ということ  
がありそうですが、督促手数料というものは、今までどの程度  
の件数があつて、どの程度の年間の収入があつたため、この  
点を教えていただきたい。

・税務第二課長(多田俊一君)十八条の五とおっしゃいます。だが、  
第三十一条の四ではないかと思ひます。



第三十一条が督促手数料の条例になっております。

督促手数料につきましても、三十六年度におきましては、市税関係で発布した件数が一六、一八〇件、これに対して、入って手数料が十一万四千七十円、三十七年度におきましても、一六、一九七件、十三万二千二百二十円というふうになっております。

なお、国民健康保険の方の督促手数料について申し上げますと、三十六年度発布件数が六、五二八件、それに対して入ったのは、三万七千七百三十円、三十七年度、五、七六〇件に対して入って、二万八千二百五十八円、こういうふうになっておるのでございます。

。三四番（山本昇君）手数料の全廃によりまして、今までの経過を聞きますと、たいした額ではないのでございしますが、目的は、早期に納入していただくというふうな



趣旨にあると思ひます。

「ガ」ながら、この期限を過ぎますと、督促もするし、督促手数料ももらうということによって、納期というものを納税というものを促進させておるというふうに考へられますが、今後「ガ」たことが削除されたということにつきまゝで、執行部といった「マ」で、これに対して、どのように考へておるか、行政指導によつてできるだけ早く「マ」も、効果を高めるようにするお考へであるか、あるとすれば、どのように具体的にお考へになつておるか、この「マ」単に条創の廃止というだけで、こまぬいておるのではまいと思ひますが、その点の考へ方について、

・税務第二課長（多田俊一君）でもつとも、中、實街と申す、要するに今までの督促手数料が十円というもの

は、実費徴収という意味合いが、多分に含まれておったのでございますが、わずかに十月でございますと五月の切手代と印刷代を入れますと、実費にも足りないといううが、現状でございます。今後は、納期内に納めた人と滞り納した人との差につきまゝで、おつゝやらねえという点がございますが、我々といたまゝても、今後納期内に納入ということまゝり完全に実行していただくようにいたしたいと思っております。

そういたしまして、納税組合の強化と同時に今、私の方で今年度の計画といたまゝては、滞り納者に滞り納の状況、いろいろの状況を見まゝて、現在、ふたたう税金は、これだけ残っているのだ。早期に納めてくれと文書を出し、まゝて協力していただく。現年度かにつきまゝては、一つでも、滞り納した場合には、こゝに對して、通知を出す。



必らず、現年度をなるべく徹底して取るという方針で進みたいと思います。

・三四番(山本昇君)より切りました。正直者がばかを見るというような政治は、一番まずい政治だと思っています。うで、そうして課長さんや考えを實施に移し、正直者がばかを見るというように切にお願いいたし、質問を打ち切りします。

・八番(望月照正君)第五十四条の第二項の次に五項を加える中、四項ですが、震災、風水害その他、不明である場合というは、当市においては、該当が現在あるのでございます。

・税務第一課長(高木哲三君)当市にはございせん。

・議長(黒川佐太郎君)本来に対する質疑は、こゝをもつて打ち切り、討論省略原案通り可決するに中議ありとせん。



「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。

よって本案は原案通り可決さうとした。

日程第十一 議案第九十九号に対する中質疑を願います。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長（黒川佐太郎君）質疑なしと認めます。よって本案

は質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するに中

異議ありませんか。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長（黒川佐太郎君）中異議なしと認めます。よって本案は

原案通り可決さうとした。

日程第十二 議案第九十九号に対する質疑を願います。

「異議なし」と呼ぶ者あり」

議長（黒川佐太郎君）質疑なしと認めます。よって本案に

対する質疑はこゝをもつて討論省略原案通り可決するに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決さふユーた。

日程第十三議案第百五号に対する中質疑を願います。  
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中質疑なしと認めます。よつて本案に対する質疑はこゝをもつて打ち切り討論省略原案通り可決するに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よつて本案は原案通り可決さふユーた。

日程第十四議案第百六号に対する質疑を願います。

・三四番(山本昇君)第二中学校の工事の名称の中に第二  
中学校技術科室。その他ということでございますが、そ  
他というは、どういうことであるか、教えていただきたい。

・教育長(工藤和平君)家庭科室でございます。そ、次に書  
いてございますが、本市市立技術科室、家庭科室増  
築……

・三四番(山本昇君)本文の中にあるその他の工事請負と  
いうのは、どういう意味ですか。

・教育長(工藤和平君)廊下

・三四番(山本昇君)教室を作れば、当然廊下があります。が  
教室のほかに特別の廊下を作るものであるとか、そういう点を  
はつきり教えていただきたい。

・教育長(工藤和平君)に、今、説明間違いました。その他工  
事のその他は、現在家庭科の室がございしますが、その室の



二十五坪だけをとりこわす工事費でございます。

・三四番(山本昇君) 取りこわす工事ですね。それは取りこわすだけで済みますか。 取りこわしたところに何か作るのかそういう考えですか。

・教育長(工藤和平君) 取りこわすてさらに増築するわけでございます。

・建設課長(新井重助君) 私の方で設計いたした中で私の方から申し上げます。

こゝは、現在約五十一坪、家庭科教室と技術室があるわけでございます。そううち、家庭科教室二十五坪を取りこわすまゝで、そうあとに校舎に取り付けて増築することになつておりますでございます。 その他は、旧校舎の一部取りこわすが入っております。

・二番(石井正君) 建設用地について中實町一たいです。

が、当初教々が教育課長と視察に参ったときと現在と  
用地が違ふようですが、そのわけを。

・庶務課長(千場伊右エ力君) 当初予定していたテニス・コート  
のありところでございますが、そこに技術教習教室を七十七坪  
建てますと、あそこには全部のものが入らないのでございまして、  
それで今ある家庭科室、技術科室の家庭科室を取りこわし  
て、そのあとに家庭科室を四十坪増築することになりました。

・二番(石井正君) ちつと違ふように思いますが、技術教室ですね  
そのまゝコートのように建てるというふうに聞いておたうです  
が、家庭科の教室は、今までのところですね。あそこに技  
術教室を作るという説明があつたのです。それがコート  
の方にできたという話を聞いてゐるのですが、その点ど  
うですか。

・庶務課長(千場伊右エ門君) 現在技術家室と家庭科  
 があるところ、あいを全部取りこわして建てるというこ  
 とになりますと技術科室が現在あるものをせいの補  
 助をもらつて建てるということになりますと、補助がこた  
 ないで、実際に使用する場合にコートやところに技  
 術科室をセツと坪を建てて現在、技術科室を、残  
 して、家庭科室だけ取りこわしてそこに家庭科室を  
 建てるということになり、技術科室を取つてそうしてそ  
 れを建てるということになりますと、現在技術室がある  
 ものをそれをこわして建てるということになると、補助  
 がこたないまゝということでございますと、そういうふうにい  
 ました。

・一番(石井正君) そうしますとコートやところに校舎は建  
 つわけですね。

庭球コートをつぶして校舎が立つわけですね。

当初はそういう計画にやなかつたわけです。その点を私は賛成しているのです。

最初、課長の説明で、まずと、三浦ナットーですが、あそこ、三角洲を買い上げてそこに斜めに伸ばすという計画だった。最近、南くとコートの方、技術家、庭科室がでるという点と、その変更の理由を聞いておろすです。土地買収の経緯などを聞きたいわけです。

・教育長（工藤和平君）　ただいまの変更につきましては、庶務課長の申し込理由が一つと土地買収において、難点がございまして、不可能になったわけでございます。そういう観点で特に補助金や打ち切りという問題は重大な問題でございまして、学校当局と十分話



「合いさいに」そして、テニス・コートうところに持って  
くヨウが一番妥当であろうという決定を見たりわけござ  
います。

・一番(石井正君)私はあゝコートうところに技術科教室を  
持つていくことは、妥当でないということ、質問にわけです。  
ですから、最初に難点があつたというその難点も具体的  
にあげていただきます。

もう一つは、二中はあそこにコートを作るに金まけて本  
格的にコートを作った。それが結果として、二中は、果  
下で非常に優秀な選手を出しておつて優勝しておる。  
そう、現在、つぶさいて、一校も、あそこ、自動転車小屋  
がつぶさいまゝで、あそこに建つということ、学校としては  
困つておるわけです。一校も、校舎が隣りで木工・金工  
をあそこでやりますと、南側の校舎は、非常に授業が

やりにくい。これは、現在、学校側は在方がないということでも  
解っておりますが、この点は、十分建てる上において、いわけ  
る専門家であります。皆さんは、よく考えなければならぬ。  
ですから、買収の困難性がどうあるか、具体的に  
に聞きたい。まだ校舎は建っていないから、改善できる  
もうなら、最初う位置に建てていただきたい。もうや  
むを得ず、あそこに建てると場合は、コートをどこかに依  
つてやらなければならぬ。そういう点について、考慮さし  
ておるかどうか、この二点。

・教育長（工藤和平君）第一点の買収という点につきま  
す。結論は、金、問題でございますが、学校当局か  
ら、要望があつたわけでございます。

土地の買収につきまゝでは、大きな課題をひかえ  
ております。

現在学校の敷地が六分の一が他から借りてある土地  
でございます。

従いまして、あそこを先にそれを解決しないで買収  
するということは、いろいろ観点で困難があるということ  
で予算措置がでない。そこで、学校当局と話し合い  
をして、やむを得ないで、テニス、コートのところ建てて  
るを得ないということを話し合いをしてたわけでございま  
すが、その際、問題になりまして、第一点、う代替  
地の問題でございます。この問題につきましては、  
学校では、十分考慮して現在どこに依るものが的確な  
場所か、たゞ、学校としてほわう土地に依ると  
いう話を校長もしてありますので、私どももそうと  
して、一応安心して位置の変更をしてたわけでござい  
ます。

・一八番（西村真次君）たゞいま、質問するわけでご

ぞいですが、聞くところによりはすと、テニスコートがつぶれ  
また同時に自転車置場がなくなるということと、他に代  
替地を市で本当は見つけてもらうのが、一番いいこと  
でーうけけども、そういうことよりも、P・J・A そう他が  
積極的に自分の方で見つけて見ようという機運が  
あるように聞いておるうであります。仮りにそう代替  
地が手に入るような場合にその費用を市で負担して  
あげると、市意思があるかどうか、この点をお伺いいたし  
たいと思います。

・教育長（工藤和平君）代替地の問題につきましては、当時  
他に求めるということではなくて、むしろ、校庭内に新しく  
テニス・コートを作るような解釈をしておりますので、市費  
をもつて、これを補うということとは考えておりません。

・二三番（君塚喜三君）石井議員の質問に関連いたしまして

二中当局と話合つて見ますと、あそこが校庭をつぶす  
 ということは、非常に大きな問題で、そのことが、実は頭  
 痛う種でーようがないということをおいっています。

授業にも差一つかえる。今、ところ持っていきようがない。  
 二中の校庭は二千平方生徒を擁してゐる。そうして、あ  
 そこが大体四千坪です。市承知のように、大体、厚校  
 の生徒一人当たりの運動場、坪数ということとは、  
 十二平方メートル、大体、四坪程度が普通だということ  
 になってゐる。それが半分、現在、倍あつてちやうど規定  
 の運動場ということになるわけです。ですから、今、二  
 中の実態と一まゝでは、生徒全員、一ぺんにあそこ  
 に出すことは、危険である。従つてそれを交互に運動  
 場に出してゐるというのが現状でございます。

そういうふうに狭い校庭の中にもう一つテニス・コートをもど



かに持つていくということになりそうです。ますます狭くなる。

テニスコートをつぶしてそれをどっかに何とか何とかいいで  
はないか。ということ。この建築をすることに問題がある  
うかと思えます。

当然、市は建てるからには、そこで運動場というものを  
考えて建ててもらわなければならぬ。このように考える  
わけでございます。いまだ一点、そういう点を考慮願  
いたいと思っております。

。教育長（エ藤和平君）各学校、運動場、坪数につきま  
は、お話しように、生徒一人当り四坪ということになってお  
るわけでございますが、それに合致してある学校はほとん  
どございませんで、このように遺憾に思っております。  
でございます。

特に二中は市街地でございまして、その状況で、学校

庭の拡張は、まず、困難かと思われます。従いましてお話しのように、まだ、狭い校庭の中にテニスコートを設けるということは、矛盾した話でございしますので、なお一段研究いたしまして、検討して見たいと思います。

・議長(黒川佐太郎君) 本案に対する質疑は、これにて打ち切り  
討論者 略 原案通り可決するに、異議ございませんか  
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 本異議なしと認めます。よって本案は、  
原案通り可決さいます。

日程第五 議案第百七号に対する質疑を願います。  
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 本質疑なしと認めます。よって本案  
に対する討論は、これを省略するに、異議ございませんか。  
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)中興議なしと認めます。よって討論は省略する議ことに決しました。

このより採決を行ないます。こ。際申し上げます。

本議案の採決は、特別多数議決であります。

よって、起立により採決を行ないます。

本案を原案通り可決するに賛成の諸君の起立をお願いします。

### (起立全員)

・議長(黒川佐太郎君)起立全員、よって議案第百七号は、原案通り可決されました。

日程第十六 議案第百一号に対する予算案を願います。  
・三四番(山本昇君)追加更正予算の一般会計の部につ  
きまして、二、三お尋ねしたいと思ひます。

第一点は、市役所費の第八項、管理費の中に自動車

車庫新設工事といつて七十万円ですわ。かように盛つてありますが、この説明を聞きますと、車庫が狭くつたので増築したい。かようなやり説明でございまして、どこに増築されて、どのようにするものや。これをまずお伺いしたい。さらに現在あります車庫に対して、まず、シャッターがないために日曜等にもきこいで、自動車を入れるので、痛められてゐる事実があつたのでございしますが、早くシャッターを依つて、そうして被害を防除してもらいたいということを再三お願いしてあるのですわ。一向、そうしたことや、やつておりません。今度自動車の車庫を増築するに当りまして、シャッターを施設する考えがあるかどうか。また、新しい車庫に対して、そうした施設をするかどうか、この点をお尋ねいたします。

次に第六、救済社会労働施設の中の第十六項の老人

福祉費・三十九節に老人扶助費というものが百六十四万九千百円というものが盛り込んでおりますが、この扶助費の内容といたしますが、対象といたしますか、どういう人たちに対するという方法でやられるのか、老人ホームにおられる方だけなのか、或いは、一般の老人かということにつきまゝつて、中説明をお願いしたいと思ひます。

次に八款の産業経済費の中の第七項観光費にあります。需用費三十一節、補償及び補てん金の五十九万の予算があります。これは、説明にしますと、国民休暇村設置に伴いますところの建物、補償とか、いろいろな説明をいただいたのであります。これは、具体的にどのようなものか、どういうふうにするのか、この点を詳細に中説明をいただきたい。以上、三点につきまゝで、中質問申し上げる次第でございます。



・福祉事務所長(鶴沢資寛君) 第二点の老人福祉費の扶助費の内容について申し上げます。

ここに計上いたしまして百六十八万九千五百円というものは、現在老人ホームに収容されております人たち二十五人分の八カ月分をここに計上にわけてございます。

・総務課長(山口実君) 第一点の市役所の営業費の自動車庫新設工事の件でございますが、一応ここに計上いたしまして、この七十万の設計は、定金にできておられますが、一応考えております設計は、現在でございますが、入ってあるあんな式でもって鉄骨でもって現在の車庫より南の方に約二十五坪程度のもつを作る考えでございます。シャッターの点についても、一応予算の範囲内で簡単なものでも一応考えております。また、現在の車庫のシャッターの件でございますが、

一応再検討いたしまして、何か簡単なものでも早急にやり  
たいと思います。

・観光課長(小沢正治君)第三点の観光費のうち、補償金  
五十万のもうございしますが、現在鶴山荘の先の方へ参  
りますと、見物漁業協同組合というのがございます。

見物漁業協同組合うちと先の岩場から松林にか  
けて、敷地以内に現在渠の方から、私どもの方に連絡が  
一応十一月中執行現在本設計進行中でございま  
す。本設計書が完成次第、その設計書をもって、お  
るという連絡だけでございしますが、この間、建設業者が  
参りまして、状況を伺ったんですが、あそこへ先に大体  
二百五十名収容の二千平方メートルの鉄筋コンクリート  
三階建ということが発表になっておるということございま  
す。十一月中執行ということになり、十月中旬に移転

交渉をやっていたんだけどという要請がございまして、  
通協という折衝のたわけでございすが、大体、移  
転する建物は、事務所が十五坪、それから、倉庫が  
十八坪、従業員の控室が六坪という建物でござい  
まして、これを移転と申しましても、従業員の事務所で  
ございまして、海、見えないうところに移転でござい  
で、なるべく近く、操業に支障のないところに移築、引  
き家という二種類の工事になるわけでございすが、そ  
いの積算が五十万ということで五十万の範囲内で充  
てて得るうちにこれから、やはり、地元にまかせるとな  
る市で最後まで、めんどろを見てやらなければならぬと  
思ひますので、五十万の範囲内で移築、移転を完了し  
たいという考え方でございします。

三四番(山本昇君)第一点の市役所の営繕費の問題

ですが、総務課長さんへ答弁、自信のない答弁で甚だ不  
満なんです。現在ある脇に、その程度のもうを依って概  
略見積り設計もーていないので、七十万ということですが、  
どうもはつきりしない。少くとも、予算を計上してそう  
したもうを作るといった場合、やはり設計をどういうもう  
を作るかというふうにするうだということとをさめて予算  
を計上するならば、私ども納得するが、予算だけ通れ  
ばいいんだという考え方におけることは、私ども納得でき  
ない。そこではつきりしたもうをふーていたみたい。一か  
も聞くところによると、二階建にして二階を係員の休  
憩所にするという話ー合いもあった。現在うところは、  
厚生関係の人にちう休憩所にする。そこまで具体的に  
な話があったように聞いておりますが、そういったことが、説  
明されてない。その点ははつきり答弁願いたい。

さらに何とか考えようという答弁は私どもは聞きたくないであります。やるとやらないとかいうのはつきりしたものでないでいていただきたい。現在の車庫がミヤダ一とやらならやる。やらないならやらないと、若いもうひとラックを入るといふような考えかならば、かように説明していただくならば結構ですが、今の課長さんの説明では納得できません。もういっぺん相談しては答弁願いたいと思います。

さらに観光の問題ですが、それは、道路の施設にすまじくついて移動であるが、国民休暇村の仕事を施設するためのものであるか、教えていただきたい。

・総務課長（山口実君）車庫の設計でございすが、一応五坪でもって、現在より古い車庫の南の方に鉄骨作りで、もって二階は使いません。二階には、人間の入りようなもの



作らないで平屋建てにいたしまして、その建物につきまゝでは、  
簡単な扉を依ります。

従来の車庫については、現在うところはつきりとした計画は  
ございませぬ。

・観光課長（小沢正治君）第二点でございますが、道路は現在  
開通してありますので、第二段階として国民休暇村協会  
が事業実施に当ります。国民宿舎の建設とそれに伴う  
付帯設備の敷地関係で一応現在の見物漁協を以  
ての地域から若干はずしていただきたい。それを市の手に  
よって実施していただきたい。という県からの要請でそのよ  
うにしております。

・三四番（山本昇君）総務課長さん、片倉弁具体的にでき  
ていないものを予算だけ獲得すればいいのだということか  
が納得できない。こゝこゝ、こういうものを依つて、こういう

ふうに使用していただというならば結構ですが、具体的にありませんとすることは、納得できないんですが、この点はもつとはつきりきいていただきたい。

それから観光費の問題でございますが、当初国民休暇村をやるときに、七億五千万金と一億もそううちう二億ばかりがいりゆる果と国と市と七千万円程度ということであつた施設に対する費用を出す。かように私も聞いておりますが、現在道路とか、こういう公営的な施設に対する金だったら市が出すことも、やむを得ないと思つておるが、施設をすうに必要のために出すということ、私は、私もは、納得できないんですが、その点についてはつきり了解をここでほしい願いたい。

さらにまた、国民休暇村に炭津いたることで、先般菅野財局の方から、国民休暇村の問題につきまて、調査に参

ったそうであります。が、これはどういうことできたのか。私も  
聞くと、ころにすぎますと、神の島の問題があります。が、神の  
島につきまゝでは、いろいろ海上自衛隊の方のいろいろな問  
題があります。そうして、さらに設置場所の変更を求め  
たとか、中央に向かつてやらね、その結果におきまゝで、警  
戒局の方でまたような話を聞いたんですが、この点について  
の真相を合ひせてお知らせ願いたいと思います。

・勤務課長（山口英君）ここに掲げました七十万は、今後作り  
ます新設増築の車庫でございます。約二十五坪  
平屋建てにいたしまして、それらについては、シャッターで  
かく戸入り、そういうものを設けまして、現在の車庫  
に入っている乗用車をここに入れるか。または、新しい  
車をそこに入れるわけ、計画はございませんが、乗用車を  
ここに入れる考えで計画しております。

・観光課長(小沢正治君)山本議員さんのお考えでもっとも  
でございます。その点に對しまして、私どもの方といな  
いましては、公共事業はこの九月現在において大体三  
十八年度の最終決定を見るわけでございますが、そ  
の結果、公共事業費に伴う地元負担の負担関係も  
近く確定さうなところと思うわけでございますが、その関係と  
は、全然別個でございます。

これはあくまでも国民休暇村協会が実施する事業  
に關連いたしまして、道協移転問題でございます。こ  
れに對する経費負担が法的に館山市は、支払わな  
ければならないという根拠はないわけでございます。  
そこで、経費負担の關係につきましては、助役さんが、  
果にも、折衝に参りまして、一応負担方法について、  
要請したわけでございますが、この際この關係は、館

山市負担でぜひお願いしたいということで一応、地えで  
移転の面倒を見るということでお願いするわけですが  
います。

舊戢の沖の島関係ということにつきましては、我々金  
然連路がございまして、熟知してございません。

・三四番(山本昇君) 第一点の装飾費の問題につきま  
ては、一応了解いたします。

ただ、問題は少くとも、多額の金を出してやることでござ  
いますので、そうなる被害を受けないように十分注意し  
ていただきたいということをお願いいたしまして、完全な  
る管理が出来ますように増設は、やむを得ない。かように  
考えますので、そういうことをお願いいたします。

次に観光の国民休暇村の問題でございますが、どうもそれ  
では、納得がいきません。少くとも、公的面的については、地



元負担はやむを得ないと私とも了解してあります。  
 国民休暇村協会に一つ一つ市が責任を持って金を出さ  
 なければならぬということに、今後どう程度まで出さな  
 いばならぬか、心配になります。ですが、将来、そういうこと  
 が出てくるのではないかと申し上げます。その点も見込みはど  
 うですか。助役さんには、これに関連いたし、もう土地の向  
 題を合わせてお答え願いたいと思います。

・助役(小出武男君) 国民休暇村協会が地元負担金の問題です  
 が、当初計画は、確か、二億と記述してあります。二億  
 と申しますと、国、県、市と分けますと、七千万円位が市  
 による負担計画によれば、そういうふうな予想されたの  
 ですが、その後、いろいろ関係者の意向を聞き出すと、七千  
 万も一億も負担するケースは、今までないので、これも土  
 地によって、或いは、今後施設によって、違いますけれども

大体、私もあの土地の規模からせいぜい出して三千万円位  
出せばいいのではないかという漠然とした考えを持っておしま  
それから、今の国民休暇村の漁協の移転問題ですが、実は  
私も公営的の中から果負担分から率を設定して、  
出してもらいたいということを主管課長に折衝しておいた  
のですが、今、申しますように道路からはずれておるという  
難点が一点ございまして、果してその点のつてやめるかどう  
か、疑問でございまして、出せるようになれば、果が出す。  
それから、一応この際は、出しておいでくれといううが、裏で  
ございます。

これは、今、山本さんのいわれますように道路からはずれ  
ておりますので、当然事業団体で出すのがたてまえと  
私も考えます。従いまして、五十万円の問題は今の  
見通しとしては、おそらく果の今後の見解で出る

と思ひますけれども、果負擔分の率から、率を設定して出すというが成功すれば、結構でございます。その見通しは、今のところ、三、位に考えられます。最悪の場合にこちらで持つ、或いは、今後の折衝において、協会にも一部申請、そういう点は、今後に残さずしてあります。工事そのものは、十一月から、着工というせつばつた状態に、きております。で、一応、漠然たる内容でございますが、その程度のもうを、取つておいて、ただ、かなければ、十一月からの着工に間に合わないということから、甚だ、不完全な原案でございますけれども、計上したわけでございます。まして、従ひまして、今後、折衝の余地があるという含みで、承知願いたい。かように考えます。

・三四番(山本昇君) 私ども、市民の血税でありますから、むだに使いたくない。一かも、納得ういくものであつたら、出さな

ければならぬだけども、こういふことを出すことが果して正しいかどうか、ということに疑念を持つ。公営的業務については、当然市が負担する。国民休暇村協会の仕事に対して市が負担するということは納得できない。助役さんへ話では、今後渠との折衝もあるし、渠としては公営事業でないから整るはずいということと言われたい。ということは当然だろうと思います。市としても当然この線を打ち出すべきではないか。国民休暇村協会に委ねるべきである。こう点につきまゝで、助役さんが十分折衝をしようとおっしゃられておりますので、助役さんへ手腕を信頼いたしまして、今少し様子を見たいと思います。それから先ほど申し上げました地域の変更云々という問題も巷間伝へられておりますが、その点についてはある点がありまゝから教えていただくまいと思っております。

最近警察取局からきたという話を聞いたから場所が変更というような話があるかどうか。

・助役(小出武男君)全然でございません。

・一々番(辻田実君)市役所の中の諸費のところに取り扱う福祉厚生業務委託費というものがございしますが、この点につきコーでは一昨目の説明の中でもって市役所の取扱いの制取を作るということまでございしましたが、この点については、金額を支給するものか、一部補助金のものか、その点どう程度の補助か、それと男子と女子の数、そういう点について詳しく説明していただきたいと思うわけですが、二番目に保健衛生費の中の清掃のところまでございしますけれども、三七節の負担金補助金並びに交付金というものが七十九万計上されておりますけれども、この点につきまして、清掃モデル地区、ゴミ容器補助金という



ことで二千六百世帯ということが書いてあります。これは、どういう形でもってモデル地区というものが、設定されておって、今後こういう設定はどのようにやっているか。扱いは、どういふふうにするか。そうして、モデル地区に対して補助金を支払ふることによって、どういう利益がモデル地区にあるか。今後こういう補助金、交付金を与えて援助していくのは、どの位見込んでおるのか。来年もやっていくのか。さらには、二千六百世帯ですけれども、これ以外のもうについて、どういふふうに扱っていくかということについてもう少し内容を詳しく説明願いたいと思います。

産業経済費の中の園芸振興費でございますが、これについてパインの栽培育成をやっていくということでございます。すけれども、どの地域にどの位の規模でもってやっていくかということとパインの苗の購入費ということとで、

でございますけれども、これに対する補助率、苗などの位で、金額補助していただく、それとも、栽培者に対して負担金は、どう位なのか。その点、計数的にわかっております。たゞ、説明願いたい。

・秘書課長（小倉澄男君）第一点、福利厚生費についてお答えいたします。これは、取員の事務服でございますが、現在までは、女子にのみ支給されておりました。七十名女子取員に二年間に一回ということで、ただ今まで、二回支給しております。男子には、現在まで支給しておりません。ところで、かねがね取員組合等より、要望がございましたので、このたび、女子も入れる期間になりまして、これで、一緒に合わせまして、男子もお願いたして、ここに予算計上いたした次第でございます。なお、内訳を、説明申し上げると、男子は、やはり背広を着用していることで、

三千円のうち、個人が半額負担、女子は、うわつぱりでござい  
ますが、二千円、半額個人負担、男子分、三十六万円、女子  
六万円、この際、事務改善と合わせまして、胸に名札を  
付けるといふことで、その費用を若干見込みまして、四十  
五万円計上いたした次第でございします。

・厚生課長(吉田耕一君)第二点の清掃費の関係につきま  
してお答えいたします。

私も、市街地の特別清掃地域というふうなものが大体、  
五千八百世帯現在つかんでおります。

この地域をまず、全部容器収集に切りかえていきたい  
というのが意願でございします。

まず、当初予算におきまして、大体できるかどうか不安で  
ございまして、五百世帯を一応考えたわけでございします  
そういって、まず、館山と北条地域を現在できております

す町内会・部落会というような代表者の集まりを願  
いまして、七月の上旬でございしますが、会合の際にいろ  
いろ御意見を伺ったわけでございします。

たまたま、そういう面に御賛同を得まして、四町内を中心  
といたしまして、この実施をいたわけでございます。

この結果によりまして、たいぶ好評を博したわけでござ  
います。他々地域からも申し込み、是非、そういう面で  
集めてほしいというような強い要望がございまして、逐  
次把握をいたしまして、現在千八百世帯という方が、現在、  
把握しております。計画中に入っております。こうい  
た面によりまして、私も、どうしても、現在、当初予算に計  
上された額では、不足を生じますので、今回不足額が二千  
六百のうち、五百世帯、予算化しておりますので、大体、千  
五百を年度中に完成していくような計画で進めたい。

このように考えまして、この予算をお願いしたわけでございます。  
なお、モデル地区を設けたわけでございますが、  
私も先ほど申し上げましたように、できれば特別清掃  
地区を五千八百世帯をモデル地区と考えていきたいとい  
うふうに考えまして、この一に字句を添えておいたわけで  
ございます。

なお、このゴミ容器の準備でございますが、大体、家庭人  
員を見まして、三段階に分けております。大、中、小に分  
けまして、大を八百円、六百円、その段階に分けまして、  
この一に地域に賛同願えるものに対しては、市費を  
もちまして、半額補助を以ていこうというふうに踏み  
切っておりますのでございます。その額を今回、七十九万円  
お願いしようとして、このように考えるわけでございまして、  
なお、残りの四千世帯につきましては、最後の年度



町・鎮・市にでも把握できた三カ位はお願いしたい。いけなかつたら、新年度におきまして、大体二百萬ちとだと思ひますが、その程度を当初にも願ひたい。まして三十九年度より夏までには、こうした特別清掃地域・市街地には、全部容器収集にかえていきたい。このように考へてお願いしようというものでございます。

なお、従来、実施してありますところの収集の世帯数から、今回の容器収集にかえまして世帯が、大体倍にかへてゐるという現状でございます。

なお、清掃料金等の関係もございまして、その条例の中により、特別市長が認めた場合の単位というものがございまして、料金を書を作りまして、料金の徴収をかえまして、衛生組合単位といつて、料金を徴収する。何名ということでは、衛生組合単位といつて、組合長の方から代金の

一括徴収を——していきなさい。こういうふうな考え方でいきますと料金を半額に下げてもまだ、従来より料金よりも多くの料金が徴収されるという利点と、もう一つ、収集の問題でございしますが、従来よりここにございしますコンクリートとか、動かないものから現在トラックで、収集してあるわけでございますが、そういうものを見ますと、七十乃至八十が現在の一百の収集世帯でございします。

そうして、現在の容器収集にえまーなものと比較いたしますと、容器収集が大体五百五十世帯位が一日一台の車でできる。それも三時か三時半に完了できる。こういう利点から参りまして、私どもも多少経費は伴いますが、各家庭も清潔になり、或いはまた市の行政の面でも喜ばしいし、なお経費の点も安くしてもむしろ、市の収入がふえてくるというふうな考え方をしたわけでございますので、今

回この願を是非ともお願いいたしたい。かように考える  
次第でございます。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君)園芸振興費について申し  
上げます。

パインの栽培の関係でございますが、現在委託展示園と  
いたしまして、藤原部落三十坪、沼地区におきまして、百  
三十坪、これを鉄骨のビニールパイプを施設いたしまして  
約三千本のパインの展示園をやる計画でございます。  
すでに準備が整ってあるわけでございます。

苗の補助率でございますが、当初約一本百円の見積り  
を立てたわけでございます。実際に取り引きする場合に  
約二十円安の一冊八十円ということでございますので、当  
初は半額補助という線に進んだわけで、ございますが  
今お話ししましたように差額も出ましたので、若干上まる

補助率でということを考えております。

ハウスの施設費につきまゝでは、約九十％程度を補助金として出したいというふうに考えてこのような追加をお願いいたします。

一、番(けり実君)第一の点につきまゝでは、女子のみならず、男子についてもできるだけのことをしていつていたいただきたいということで了承したいと思います。

二番目の清掃費のことですが、コンクリートの場合には、大体、一カ月に七十円乃至百円ということでおまゝでおるようでございますので、そう廃止して容器に代えた場合、四十円位ということでもってゴミの費用が安くなるかということ、喜んでおるのか、この容器の普及の特徴ではないかと思っております。

一、かしながら問題は、一部落単位、先ほど申したような、

七、八十軒を單位にして集めているところにつきまゝでは  
 その組合の費用というものは、十円乃至二十円で回収  
 されてゐるわけでございますが、この地域がどの程度ある  
 かということです。また四十円でも実質的には清掃費  
 の値上りということが批判が出てくる。この点に配する。  
 現実には、七十円、今まで徴取されてゐるところが四十円という  
 ことになつてゐりますので、この点は、条例に基づきますと、一  
 月において、三人程度ゝ家庭では七十円、大体六人まで  
 位、百円、こういうふうになつてゐりますが、従いまゝで、今の  
 料金、二千世帯にわたつて普及されたものについて、これを  
 いつ条例通りに補助金を打ち切り値上げするかに、値  
 上げするといふことになつてくるとかなり混乱が予想され  
 る。そういう点について、補助金をしていく中でもって見直し  
 はどうか、課長さんがおっしゃつてゐるように組合ですか。



そういうものに委託していけば、経費も安いので、相当収入もふえてくるので、安くなるということをおっしゃいますが、そのことは、すぐ現行の補助金を打ち切っても、市民には、負担をかけないような見通しがあつて、そういうことをいわれても、それが、そういう見通しは、立たないが、条例に基いた補助金を打ち切った場合には、実質的には、値上げという形が考えらるということなうか。その辺の見通しをもう少しは、つまり、マア、いて、いた、だ、き、たい、と、い、う、ふ、う、に、思、う、わ、け、が、ご、ざ、い、ま、す、。

三番目に、パイニングの振興につきまして、現地の様子を調査すると、現在、マア、マア、でも、つて、や、つ、て、い、る、と、非、常、に、高、く、て、輸、入、の、パ、イ、ン、の、方、が、コ、ス、ト、が、安、い、の、で、採、算、が、取、れ、ない、の、だ、け、れ、ど、も、ど、う、の、よ、う、め、と、い、う、不、安、が、相、当、あ、る、。、そ、う、の、た、こ、と、に、関、し、て、多、額、の、補、助、金、を、与、え、て、採

算が取りそろもないという農民の不安を補うということを知っておるや、ということが、まず第一点、バインがいいだろうということでもって、農民が、それをやっても利益がない。そういう事情の上に立つて、補助金を出して行かなければならぬという事情が、あろうかどうかという点について、見通しを説明していただきたい。

・厚生課長(吉田耕一君) 清掃関係につきましてもお答え申し上げます。ちやつと、私質問の要旨が把握できませんが、一応申し上げまして、また質問にお答えいたしたいと思ひます。

私ども従来、各町内会、或いは個人へ適当なコンクリートの答を備え付けまして、そこに個人で捨て或いは十軒、三十軒というふうな大きなものをやっておったわけですが、いま、当時そうした面々一番の難関は、先ほど

申し上げましたように、収集上に手数をくうという二とが一つ、  
それから皆さまで方の利点が仲間であれば、一世帯十円  
づつですんでおるということが利点になるわけでございます。  
私どもの考え方として、もう一つ、一番私どもが皆さんの方  
より意見で困っておった点は、そうした容器だということ  
も、入梅から夏季に入りまして、完全にそう清掃がで  
きていなくなつたという方が実情でございまして、蜘蛛、ハ  
エ等の発生源がそこにあつたというふうな点から、そうい  
たような発生源をなくする上においては、どうしても個々  
の容器の収集に切りかえて行こうというような関係でござ  
います。

なお、個々の容器収集に切りかえすと、従来やっております  
す大、中、小と三つの段階で週三回の収集ができて、  
そうして、大体五倍強の収集能率を上げらるゝと

いうことで、そうした発生源の撲滅もできるし、多くの  
家庭のゴミを現金に収集できるとではないかという  
ことで、実施に踏み切ったわけでございます。

なお、今後補助金等の打ち切り云々ということもござ  
います。先ほど申し上げました五千八百程度の特別  
清掃地域や世帯につきましても、全部この課で  
進んでいきたい。このように考えておるわけで、補助金は  
今後打ち切りという考えは、毛頭ございません。  
さうも承知願いたいと思います。

・農産統計課長(伊藤孝太郎君) パインの展示園につきま  
して、実は、当初展示園をお願ひする側といたし、し  
て、希望を一応取ったわけでございます。

大体の目安を立てまして、その上、意向を伺った上で  
展示園の実施に踏み切ったわけでございます。

今後の見通しは、直接は、私よりわかりません。ただ、その後  
手数が予想外に多いというふうなことがいろいろ出て参り  
ましたので、最初申し上げましたように、当初予定いたし  
ました苗の五割補助もそういう点を考えまして若干  
更新していきないうことで追加更正をお願いいたわ  
けでございます。

○一番(辻田実君)モデル地区につきましても、そういうことで  
ございますから、五千八百戸の市街地の家庭につい  
ては、現行のまゝということでは、いいだきたい。なか  
らの運賃の中で客席が入って便利さは、買いますけれども、  
それによって清掃費の値上げが全般的に行なわれると  
いうふうなことはないように気を付けていただくことを願  
います。

次のパインの問題につきましても、せっかく始めた事業で



もってどうも市におきますところう産業の振興ということについては、中途半端もうがましいということでございますから、今年度の予算も組んでおりますので、十分な指導をしてこれが、むだにならぬように今後ともよろしく指導願いたいと思ひます。

八番(望月照正君)小学校費が二十五万、備品費というものがございしますが、この中の特殊学校の設備費が十二万円の減額になってありますが、これは、当初予算書を見ますと一取目も申説明があつたと思ひますが、二十八万円とお聞きしてあつたのです。それが、二校分を一校分に削られたのだということですが、二十八万が、二校分で一校削られて十二万円だということ。これは、どう学校がきまつて、この学校が削られたのか。これを、お聞きたいと思ひます。なお、館山市におきます特殊学校に入ら

なければならぬ生徒は、何人位あるのか、お庫きーたいと思ひます。

・庶務課長(千場伊右エ内君) 特殊学級への設備の關係でございませうが、当初予算に館山小学校と那古小学校が予定されておつたのでございませうが、これが今度、國庫補助の關係で決定いたしましたのが、那古小学校でございまして、最初は、十万円でございますが、それが、決定に當つて八万円となつたのでございませう。それで当初二十八万円組んであつたものを十二万円減額いたしましたので、十六万円となりましたのでございませう。

・教育長(工藤和平君) 第二点の問題でございませうが、特殊学級に入らなければならぬというものはないのでございませう。なお、特殊学級の定義は、甚だ広くございまして、一口に申しますと、精神薄弱の子供、それもいくつもの

段階がございます。その程度の進んだ者は、国或いは  
県、施設に入らなければならぬが、これも、父兄と結  
合いによってやっております。私どもの特殊学校に  
収容してありますのは、それに至らない程度で、ある程  
度、教育によつて伸び得るという程度の者でございま  
して、教育で申し上げますと、各学校一割乃至二割、とこ  
ろが、特殊学校級という言葉が親にちに響きが悪いや  
うでございまして、うぬ、なかなか、理解を得ませんで用設し  
ても、教の上では、少ないという方が、実績でございます。  
将来はもうサレ、サレいたしまして、一応印刷物を各家庭  
に、ばりまゝで、サレ、サレいたしておりますが、子供たちの  
幸福のためにもつと、学校をまゝでいきたい。こういう考え  
でございます。なお、国家としても、これに対する補助金を  
で、さるだけ出すということでもございまして、ただそれに伴つて

非常に難点は、適當な教員を得ることができないという、  
難点がございまして、これは、国でもその養成に力を入れてある  
現状でございます。 館山市におきましては、各所の小・中・高  
校、さらに郡市と共同し、独立した特殊学級を作りたい。  
こう考えております。

八番(望月照正君) 課長さん、もう一ぺん教員をはっきりいつていた  
だきたい。どうも納得しないところがございます。

庶務課長(千場伊右衛門君) 当初、二校分二十八万円計上した  
わけでございますが、それが、国庫補助の内定が、一校に減  
らさいますと、八万円とひつたのでございます。それで収入が  
国庫補助金が八万でございます。その倍額の十六万円  
を残しまして、十二万円を減額したのでございます。

八番(望月照正君) 一校分八万円という方は、二校で平等に申  
請をいたわけではないでしょうか。予算は、二十八万ということ

でひく、餘り小う分が幾ら、那古小が幾らということでございますが。

・庶務課長(千場伊右エ門君) 当初予定しておったのは、二校でございます。今度決定によつて那古小、学校だけに八万円です。そのため、一校分削つたのでございます。

・三二番(三沢節君) 収入、却て普通税のうち、今回追加で大きく千百八十余がふえております。これは、当初予算のときに、市民税はたいした差がない。あとで、所得別、二階級を設けて、このようになっておるから、たいした個人の税額には、わりりがないという課長さんの、その説明でございます。いま、千百八十七万当初予算よりふえたという原因について、まず、第一にお聞きします。

次に、農産物係で、各藤原の畑地、灌漑施設でございますが、これが非常に、屈折の多い問題でございます。

私たちもそのために、できるだけ完備したところの灌漑施設  
をしてほしいと要望してあったのでありますが、今回二百  
万ふえてゐるのでございますが、その内容について説明を求  
めたいと思ひます。

。税務第一課長（高木哲三君）当初予算の市民税でござ  
いますが見込みでやる関係でその後八月にはつきり  
一応ものが出来まして大体収入において二割程度増収に  
なつた関係で六百八十六万円ふえております。

固定資産税の償却資産分で四百萬ふえております。  
これは、極洋、捕鯨の償却資産でございますが、これは  
自治省の方から按分してきますので、こちらから計算  
できませんので、むこうから通知があつて初めてはつきり  
した数字がわかりますので、極洋の分が、三百四十三萬  
六千円、それから東電の償却資産の額を含めました



関係で四百万、家屋が三十五万、これは、増築分がござい  
 ーるので、三十五万円、それから交付金、交付金で五十万、そ  
 ういう数字がまじりまいて、千八十万という増になった  
 次第でございます。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) 谷藤原の畑地灌漑の  
 二百万円の追加でございますが、やはり承知のうちに当初天  
 百万円の予算を決定を見たわけでございますが、その  
 後、進めて参ります。過程におきまいて、綿密な設計、そ  
 の他の設計を終了して見ますと、やはり相当額の  
 金額の差が生じたわけでございます。そのために今  
 回最終的に設計書を全部取りまとめました結果、  
 約三百五十万程度の事業におきまいて、不足が生ずる  
 事態に立ち至ったわけでございます。でございます。  
 で、今回二百万円の追加をお願いして、あとう部分につ

きまゝでは、地元の特別な会計の手持ち金がございますので、それと足しきゝて、今回最後の畑地灌漑施設を施行いたしたいということで、二百万円の市費追加をお願いいたゝにわけでございます。以上をもちきゝて、大体あと二カ月程度で予定いたゝまゝに施設全部が完了する予定でございますので、きゝり承願いたゝと思ひます。

・三三番(三沢菊君)第一点について、現在の方式は、但し書方式を中使用的になつておると思ふのです。が、いつかの課長のお話では、但書方式は、所得税よりも、非常に控除がつかない。医療費等、あつた場合には、加算されて、いないように記憶してあります。そういう控除を見ないから、税額もふえてくる。その点、もう一回中説明願ひたい。

谷藤原の件は、当初の予算を施行する上に足らなかつた。そのため、こゝだけふやしたのだ。そゝで、どうやら

近くでござる。こゝは結構でございます。果して地元の要望にそえるような畑地灌溉とすれば、あそこがさらに五町歩、開墾してということまで、聞いておりますが、そこまで、畑地灌溉をやって足り得るだけの水がよるかどうかわかりません。

・税務第一課長(高木哲三君) 熊山市の市民税の方式は、本文方式でございます。医療費なんかは、当然控除してございます。ただ、所得税の方が控除は多くなっております。

・三二番(三沢節君) 保険料の方は、課税のワケの方に入っているように思います。

・税務第一課長(高木哲三君) 控除の方に入っております。  
・農産物課長(伊藤幸太郎君) 今お話のとおり私どもは、やはり地元は、本当に喜んでくれるので、立派な施設を

作るということ、おそろしく今の考えといひしましうては、  
どなたが中覧になりましても、相当立派な施設で  
あるということをお負うても差一つぬえないものを依  
る考えて進めておるわけでございます。

・五番(田中祿郎君)ニ三教えていただきに思います。  
学校安全協会が掛金が六へんふえておりますが、小  
中、幼稚園別にどの位上っておりますか。どの位掛  
けるんですか。もう一点は九款の福祉事業諸費の  
中の盲人福祉センター建設補助金というものがござ  
います。盲人福祉センターというものはどこにござるか。  
という役目をするんですか。それを教えていただきたい。  
それから、保健衛生費、火葬場の工事、清負費十六万  
焼却炉補修工事というものがございます。これは、バー  
ナーが薪が、昨日、庫裏落しよりたうで、もう一回、

中説明願います。

・庶務課長(千場伊右エ功君) 大体、学校安全共済掛金の種類は、増額さして小中学校では、一般が二十月のが、三十六月に値上げされてあります。

・要保護の関係が十一月から十二月要保護関係も同じでございします。

・高等学校が全日制が三十五月から五十月、定時制が二十五月から四十月、幼稚園が十二月から二十月に値上げをされてあります。

・福祉事務所長(鶴沢寛寛君) 盲人福祉センターの建設場所は、千葉大、職員宿舎を移転いまして、そのあとに建てるようになってあります。

福祉センターの事業でございしますが、盲人の福祉に関する相談、就業指導等、そういうふうなものを取り扱うことになら

おります。

厚生課長(吉田耕一君)大葬場費の二十四萬につきまゝて  
お答え申し上げます。

重油によりますところ、焼却炉現在ニ基でございます  
が、大きく破損いたしまして、使用不能でございますが、  
今回修理改造いたしたい。こゝうに考える次第でござ  
います。

なお、参考までにもうニ基別個にございますが、薪  
の炉でございます。現在使用不能という状態になつ  
ております。

五番(田中祿郎君)小中学校の共済金の問題はよく  
わかりました。盲人福祉センター千葉大の取組、宿舎  
の跡に作るということですが、盲人というふだん白い  
杖を歩いて歩いている盲人ですか、金般の盲人をさ



していろいろですか。

盲人の取業指導というものは、あんまり、針や、灸ということになると、思いますすが、それは、誰でもいいから、それを市説明願いたい。大葬場の問題でございすが、重油の方、炉が二基ある。こゝ修繕したときは、いつ頃でございすが、それがおわりになり、よりから教えていたで、きないと思います。

・厚生課長(吉田耕一君)前々修繕時期につきまゝでは、まだ私に曉しておりませんので、後はどなたか答えていただきます。

・五番(田中藤太郎君)大葬場の問題で、元々炉が坐権と竈権になつてゐたのでございすが、私もはっきり知りませんが、そういう話があるのですが、そうすると、どうもバーナウマです。普通は、頭から入れまゝで、足の方が残るといふのです。焼いて見ますと、それで、ようがはいから

返して燃してーというのです。 そうしますと、それは、死体  
何とかいう法があるのですよ。

それをどうしても、触れないわけにはいかない。 半熟になる。  
焼却炉は、補修工事をするとしたら、そうーなところを  
よくや、注意なさって十分焼けるようにやっていたんだ  
いということがいゝことではないかと思ひます、補修工  
事々とき、よくや、覽なさってやつていただくことを希望いた  
します。

・厚生課長(吉田耕一君) たびいゝや、注意を受けましたのですが、  
確にお話になり、よくや、焼けるやうなことが焼けるやうなとい  
うようなことで、そうーな面々ないやうに、今回の修理を実施  
いたしたい。 こゝろに考える次第でございまして、早く期待  
に、そうやうな監督して行きたいと思ひます。

・福祉事務所長(鶴岡資覚君) 盲人育成センターの千葉

県盲人育成協会というものがございまして、それが主体になつております。館山市にも支部がございまして、たいがいの方が協会員になつておりまして、協会員になつていなくても相談には応じらると思ひます。

・議長(黒川佐太郎君) 本案はこゝにて質疑を打ち切り、討論省略原案通り可決すべく、異議ありとせんか。  
(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 片異議なしと認めます。よつて、本案は、原案通り決定いたしきつた。

日程第十七 議案第百二号、百三号、百四号を一括して上程いたします。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君) 片質疑なしと認めます。よつて、こゝにて質疑を打ち切り、討論省略原案通り可決

することにより異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 片異議なしと認めます。よって三案は、原案通り可決いたしました。

本定例会に付議された議案は全部議了いたしました。

よって本定例会はこれにて閉会いたします。ことに片異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 片異議なしと認めます。よって本定例会はこれをもって閉会と決いたしました。

午後二時五十分 閉会

本日の会議に付した事件

一 議事日程に同じ

食口司請合

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 六三郎

望月 照正

安西 益男

辻田 実

石井 正

黒川 佐太郎

菊井 敏博

志村 信作

小沢 惠太郎

西村 真次

藤田 好治

保科 忠次

江田 徳太郎

中村 省吾

島野 茂樹郎

鈴木 孝

鳴田 繁

鈴木市蔵

安藤竜吉

安沢徳順

三天菊

高橋文治

山本昇

坂本藤太郎

大席議員

田村源治郎

関武夫

飯田義男

君塚喜三

萩生田七郎

山田教子

山口康

出席事務局取員

第一日目下同

出席説明者

第一日目下同



昭和三十八年九月二十七日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

黒川 俊孝

同

署名議員

市 橋 文治

同

館 石 佐 邦

